

2018年3月期 第2四半期 決算説明会



LEXUS LS500h

トヨタ自動車株式会社
2017年11月7日

将来予測・インサイダー取引について

本資料には、当社(連結子会社を含む)の見通し等の将来に関する記述が含まれております。これらの将来に関する記述は、当社が現在入手している情報を基礎とした判断および仮定に基づいており、判断や仮定に内在する不確定性および今後の事業運営や内外の状況変化等による変動可能性に照らし、将来における当社の実際の業績と大きく異なる可能性があります。なお、上記の不確定性および変動可能性を有する要素は多数あり、以下のようなものが含まれます。

- ◆ 日本、北米、欧州、アジアおよび当社が営業活動を行っているその他の国の自動車市場に影響を与える経済情勢、市場の需要ならびにそれらにおける競争環境
- ◆ 為替相場の変動(主として日本円、米ドル、ユーロ、豪ドル、ロシア・ルーブル、加ドルおよび英国ポンドの相場変動)および金利変動
- ◆ 金融市場における資金調達環境の変動および金融サービスにおける競争激化
- ◆ 効果的な販売・流通を実施する当社の能力
- ◆ 経営陣が設定したレベル、またはタイミングどおりに生産効率の実現と設備投資を実施する当社の能力
- ◆ 当社が営業活動を行っている市場内における法律、規制および政府政策の変更で、特にリコール等改善措置を含む安全性、貿易、環境保全、自動車排出ガス、燃費効率の面などにおいて当社の自動車事業に影響を与えるもの、または現在・将来の訴訟やその他の法的手続きの結果を含めた当社のその他の営業活動に影響を与える法律、規制および政府政策の変更など
- ◆ 当社が営業活動を行っている市場内における政治的および経済的な不安定さ
- ◆ タイムリーに顧客のニーズに対応した新商品を開発し、それらが市場で受け入れられるようにする当社の能力
- ◆ ブランド・イメージの毀損
- ◆ 仕入先への部品供給の依存
- ◆ 原材料価格の上昇
- ◆ デジタル情報技術への依存
- ◆ 当社が材料、部品、資材などを調達し、自社製品を製造、流通、販売する主な市場における、燃料供給の不足、電力・交通機能のマヒ、ストライキ、作業の中断、または労働力確保が中断されたり、困難である状況など
- ◆ 生産および販売面への影響を含む、自然災害による様々な影響

以上の要素およびその他の変動要素全般に関する追加情報については、当社の有価証券報告書または米国証券取引委員会に提出された年次報告書(フォーム20-F)をご参照ください。

将来予測・インサイダー取引について

インサイダー取引に関するご注意：

企業から直接、未公開の重要事実の伝達を受けた投資家（第一次情報受領者）は、当該情報が「公表」される前に株式売買等を行うことが禁じられています（金融商品取引法166条）。同法施行令により、二以上の報道機関に対して企業が当該情報を公開してから12時間が経過した時点、または、証券取引所に通知しかつ内閣府令で定める電磁的方法（TDnetの適時開示情報閲覧サービス）により掲載された時点を以って「公表」されたものとみなされます。

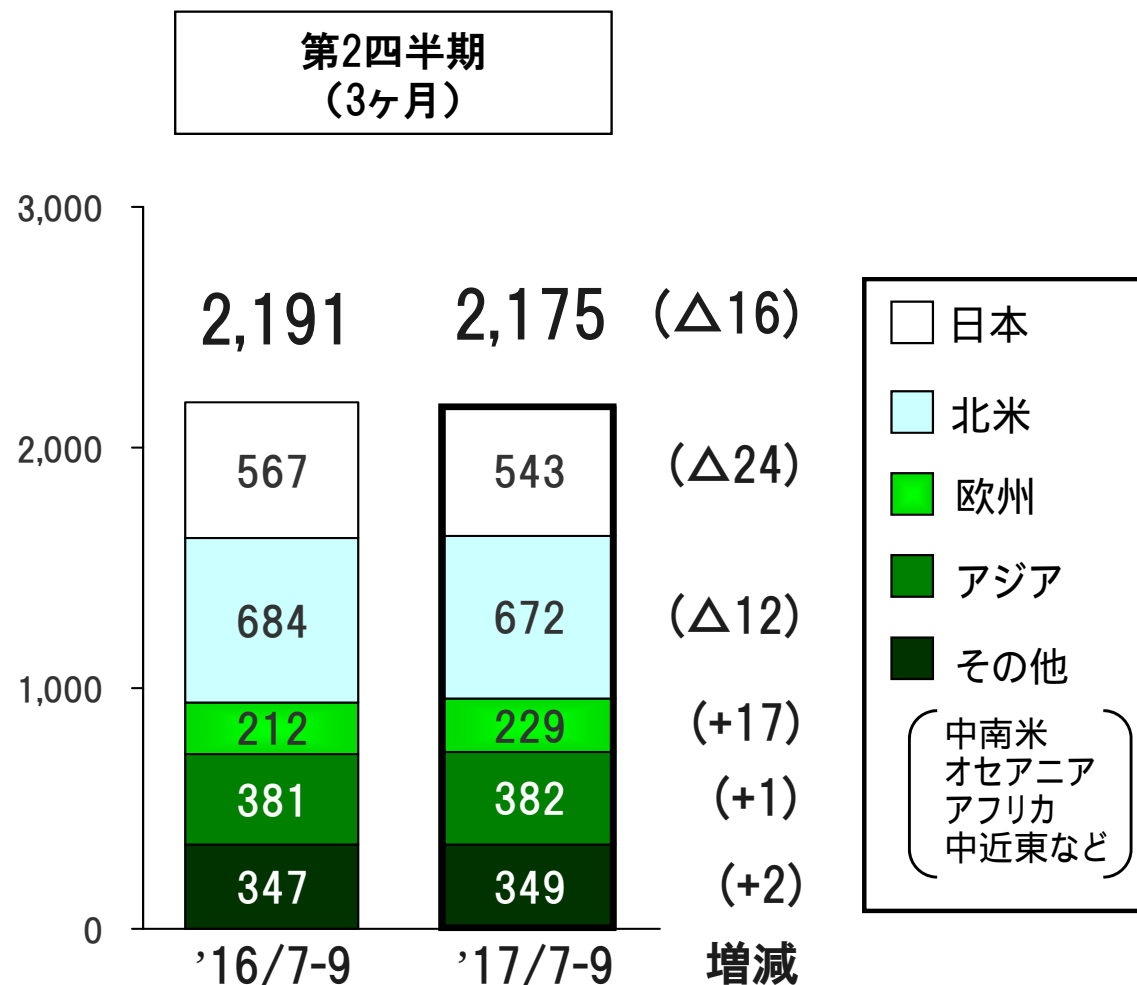
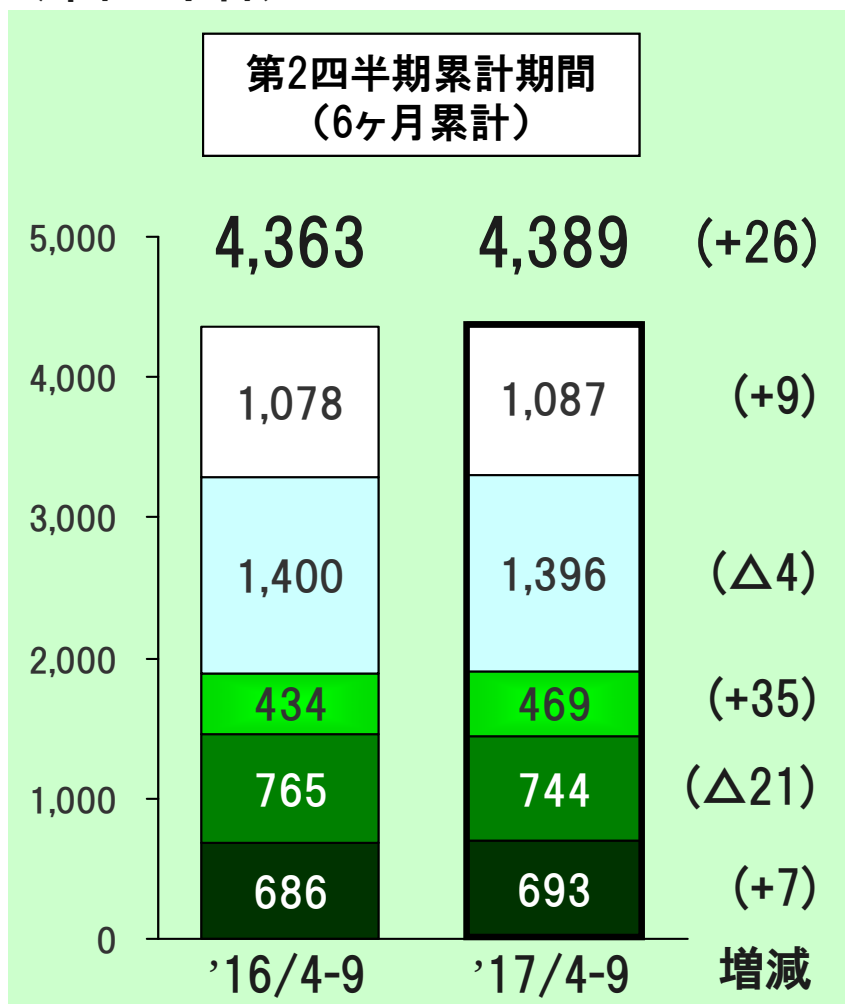
2018年3月期 第2四半期 決算説明会

2018年3月期 第2四半期 実績
(2017年4月～9月)

2018年3月期 見通し

連結販売台数

(単位:千台)



グループ総販売台数(小売)

5,067 5,216 +149

2,538 2,626 +88

連結決算要約（6ヶ月累計）

（単位：億円）

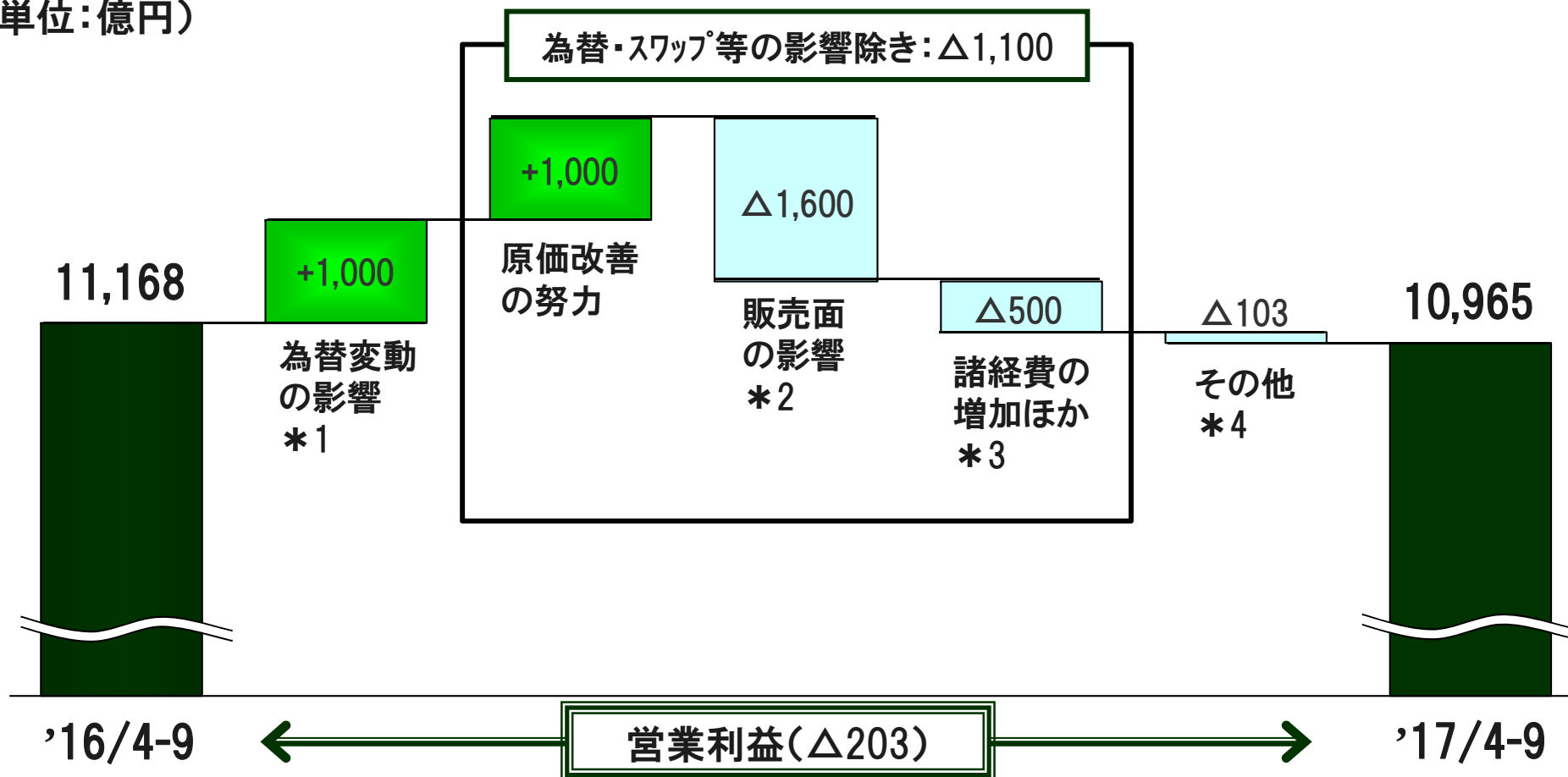
	当第2四半期 累計期間 ('17/4-9)	前年同期 ('16/4-9)	増減	
売上高	141,912	130,705	+11,206	+8.6%
営業利益	10,965	11,168	△203	1.8%
営業利益率	7.7%	8.5%	-	-
税金等調整前 当期純利益	12,521	11,765	+756	+6.4%
当期純利益 *1	10,713	9,461	+1,251	+13.2%
当期純利益率 *1	7.5%	7.2%	-	-
1株当たり利益 *2 (希薄化後)	355.92円	307.84円	+48.08円	-
為替 レート	米ドル ユーロ	111円 126円	105円 118円	+6円 +8円

* 1. 当社株主に帰属する当期純利益

* 2. 当社普通株主に帰属する当期純利益

連結営業利益 増減要因（6ヶ月累計）

（単位：億円）



*1.内訳※

輸出入等の外貨取引分	+1,800	海外子会社の	
-米ドル	+1,200	営業利益換算差	+250
-ユーロ	+250	その他	1,050
-その他通貨	+350	(外貨建引当の期末換算差ほか)	

*2.内訳

台数・構成	650
金融事業	± 0
その他	950

*3.内訳

労務費	250
減価償却費	200
研究開発費	100
経費ほか	+50

*4.内訳

スワップ評価損益ほか	103
------------	-----

先期末より、「為替変動の影響」に、海外子会社の営業利益換算差や外貨建引当の期末換算差等を含めています。

所在地別営業利益：日本

■ 営業利益(億円)*

-●- 連結販売台数(千台)

* 金利スワップ取引などの評価損益を除く

第2四半期累計期間
(6ヶ月累計)

1,078 1,087 (+9)

4,857

6,417

+1,560

'16/4-9

'17/4-9

第2四半期
(3ヶ月)

567

543 (Δ24)

1,956

3,218

+1,262

'16/7-9

'17/7-9

営業
利益率

7.0%

8.5%

5.4%

8.3%

金利スワップなどの
評価損益を含む
営業利益(億円)

4,847

6,405

1,943

3,213

◇第2四半期累計期間

6,417億円

(前年同期比 +1,560億円)

・為替変動の影響や原価改善
の努力などにより増益



ヴォクシー



ノア



エスクァイア 8

所在地別営業利益：北米

■ 営業利益(億円)*

-●- 連結販売台数(千台)

* 金利スワップ取引などの評価損益を除く

◇第2四半期累計期間

1,411億円

(前年同期比 △1,556億円)

・販売諸費用の増加や
生産台数の減少により減益

第2四半期累計期間
(6ヶ月累計)

第2四半期
(3ヶ月)

1,400 1,396 (△4)

684 672 (△12)

2,968

1,411

△1,556

1,314

△790

523

'16/4-9

'17/4-9

'16/7-9

'17/7-9

営業
利益率

6.1%

2.7%

5.6%

2.0%

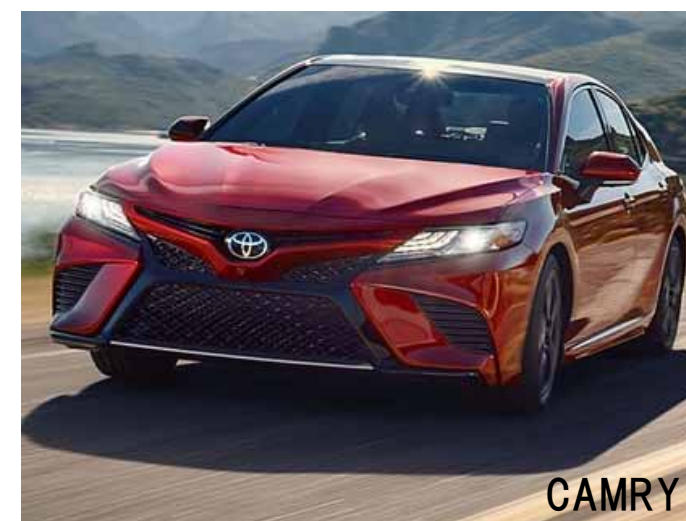
金利スワップなどの
評価損益を含む
営業利益(億円)

3,112

1,446

1,398

553



CAMRY

所在地別営業利益：欧州

■ 営業利益(億円)*

-●- 連結販売台数(千台)

* 金利スワップ取引などの評価損益を除く

◇第2四半期累計期間

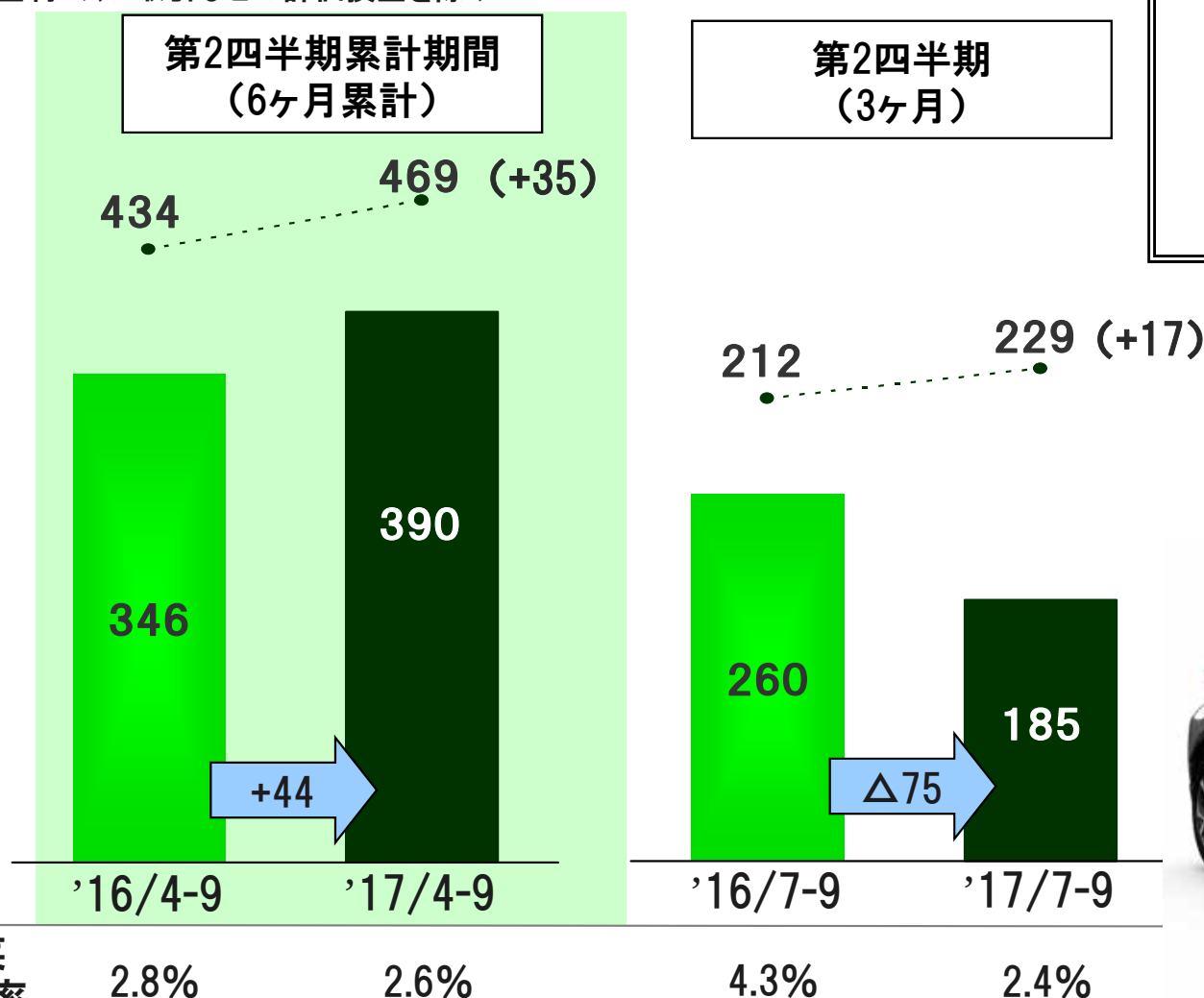
390億円

(前年同期比 +44億円)

・販売台数の増加、原価改善の
努力などにより増益

第2四半期累計期間
(6ヶ月累計)

第2四半期
(3ヶ月)



C-HR

営業
利益率

金利スワップなどの
評価損益を含む
営業利益(億円)

345

377

255

174

所在地別営業利益：アジア

■ 営業利益(億円)*

---●--- 連結販売台数(千台)

* 金利スワップ取引などの評価損益を除く

◇第2四半期累計期間

2,129億円

(前年同期比 △67億円)

・主に為替変動の影響により減益

第2四半期累計期間
(6ヶ月累計)

第2四半期
(3ヶ月)

765 744 (△21)

381 382 (+1)

2,196

2,129

△67

950

1,101

+150

'16/4-9

'17/4-9

'16/7-9

'17/7-9

営業
利益率

9.5%

8.6%

8.5%

8.6%

金利スワップなどの
評価損益を含む
営業利益(億円)

2,227

2,142

953

1,098



YARIS

所在地別営業利益： 中南米・オセアニア TOYOTA アフリカ・中近東

■ 営業利益(億円)*

-●- 連結販売台数(千台)

* 金利スワップ取引などの評価損益を除く

◇第2四半期累計期間

718億円

(前年同期比 +166億円)

・為替変動の影響や、
営業面の努力により増益

第2四半期累計期間
(6ヶ月累計)

第2四半期
(3ヶ月)

686 693 (+7)

552

718

+166

'16/4-9

'17/4-9

営業
利益率

5.3%

5.8%

金利スワップなどの
評価損益を含む
営業利益(億円)

528

703

347

349 (+2)

270

323

+52

'16/7-9

'17/7-9

5.1%

5.2%

255

316



ETIOS

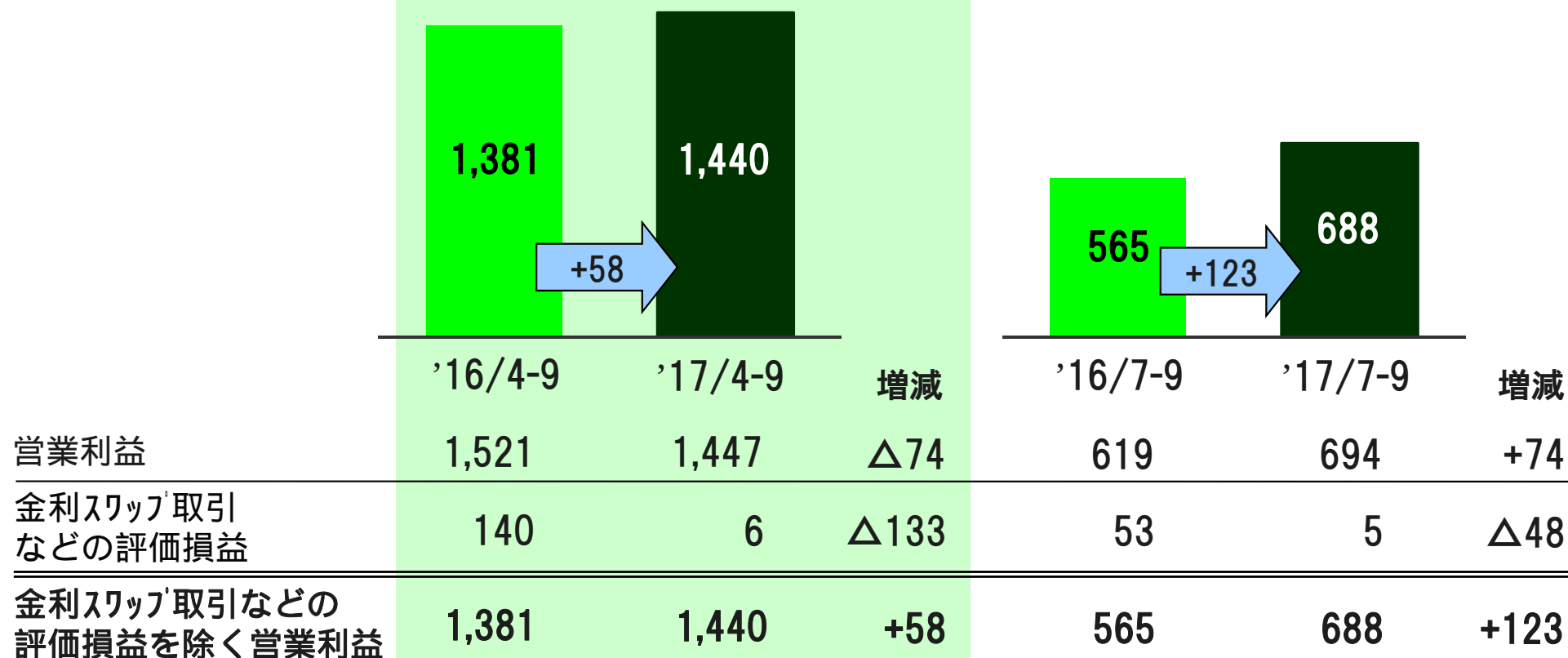
金融セグメント営業利益

■ 営業利益(億円)*

* 金利スワップ取引などの
評価損益を除く

第2四半期累計期間
(6ヶ月累計)

第2四半期
(3ヶ月)

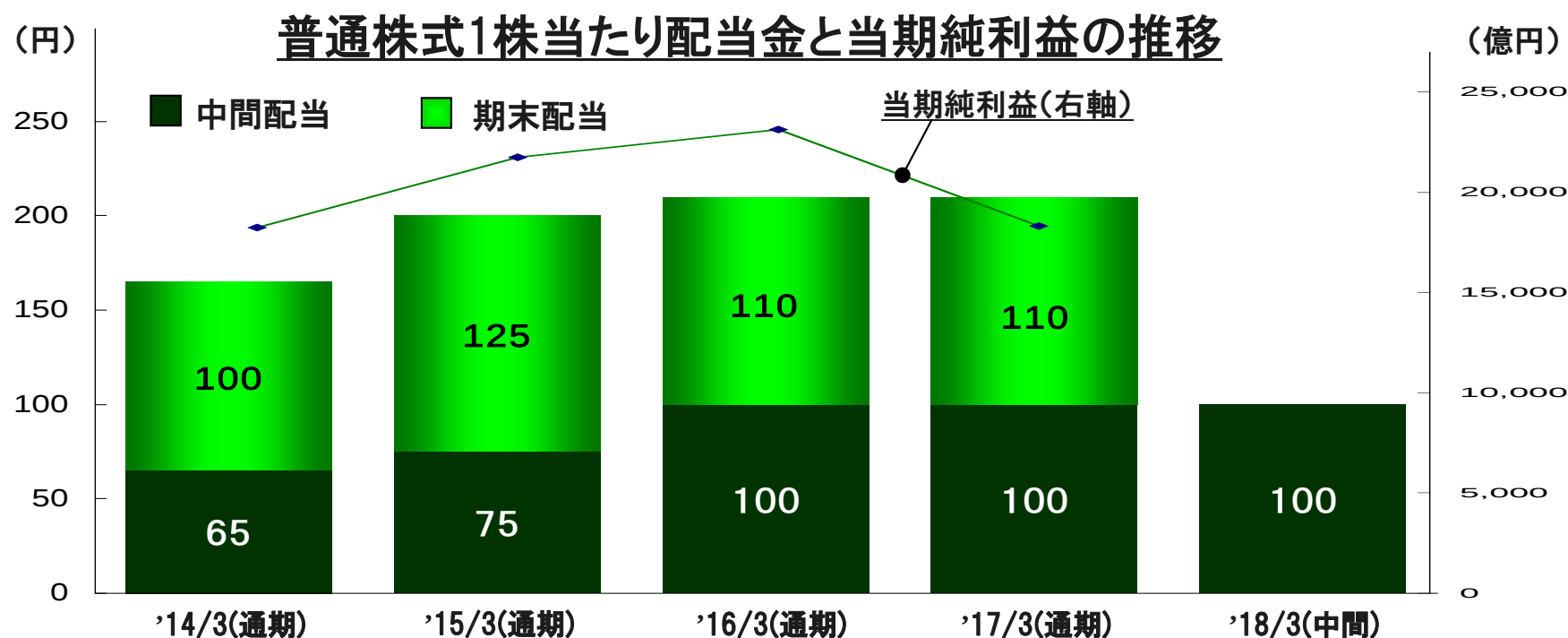


主に融資残高の増加により増益

株主還元*1

中間配当：普通株式1株につき100円

(普通株式配当総額：2,934億円、普通株式配当性向*2：27.8%)



普通株配当総額(億円)	5,229	6,313	6,455	6,275	2,934 *3
配当性向*2	28.7%	29.0%	28.3%	34.6%	27.8% *3

参考)

AA株配当総額(億円)	—	—	24	49	37 *3
合計配当総額(億円)	5,229	6,313	6,479	6,324	2,971 *3

*1 普通株式に係る配当の状況

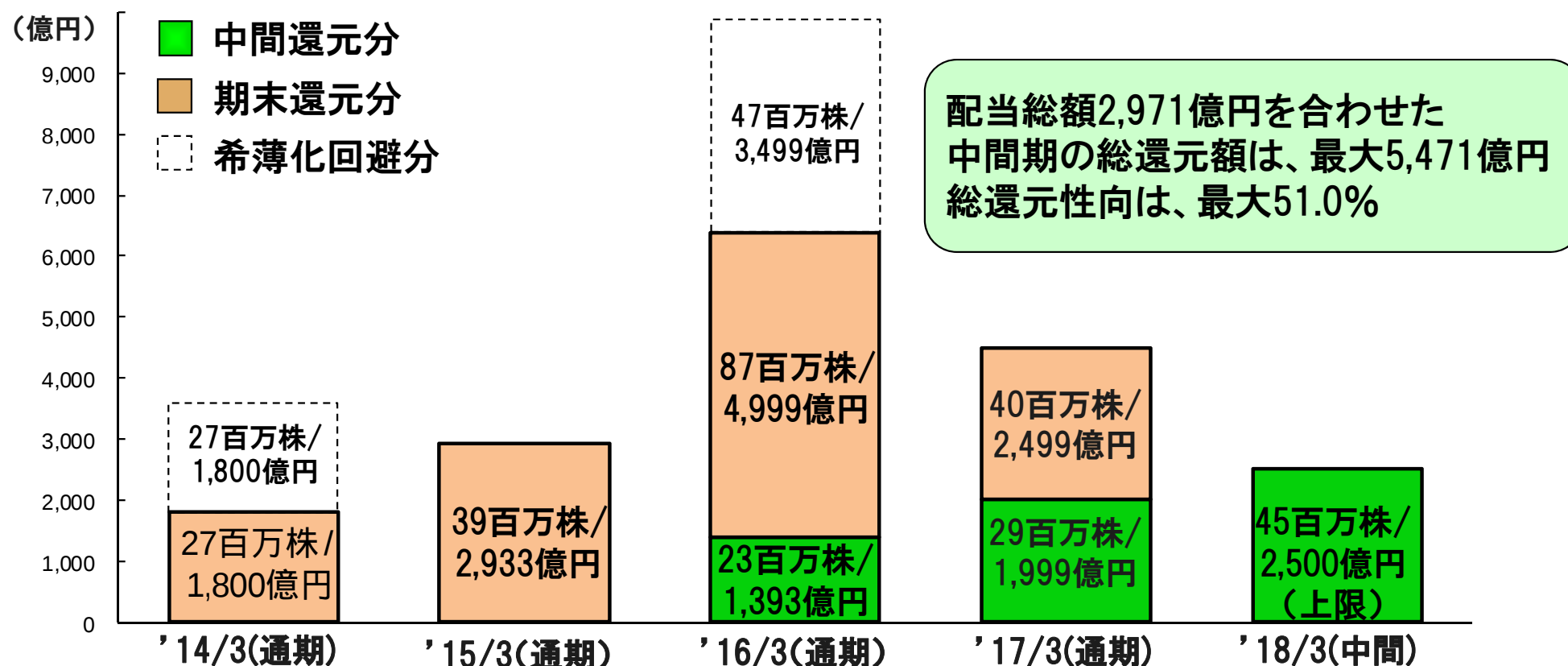
*2 配当性向 = 普通株式1株当たり配当金 ÷ 1株当たり当社普通株主に帰属する当期純利益

*3 当中間期の配当総額および配当性向

株主還元

自己株式取得(上限)：2,500億円/45百万株

(2017年11月14日～2018年3月30日取得予定)



自己株式取得*	27百万株/ 1,800億円	39百万株/ 2,933億円	110百万株/ 6,393億円	69百万株/ 4,499億円	45百万株/ 2,500億円(上限)
---------	-------------------	-------------------	--------------------	-------------------	-----------------------

* 株式価値の希薄化回避のための自己株式取得は除く

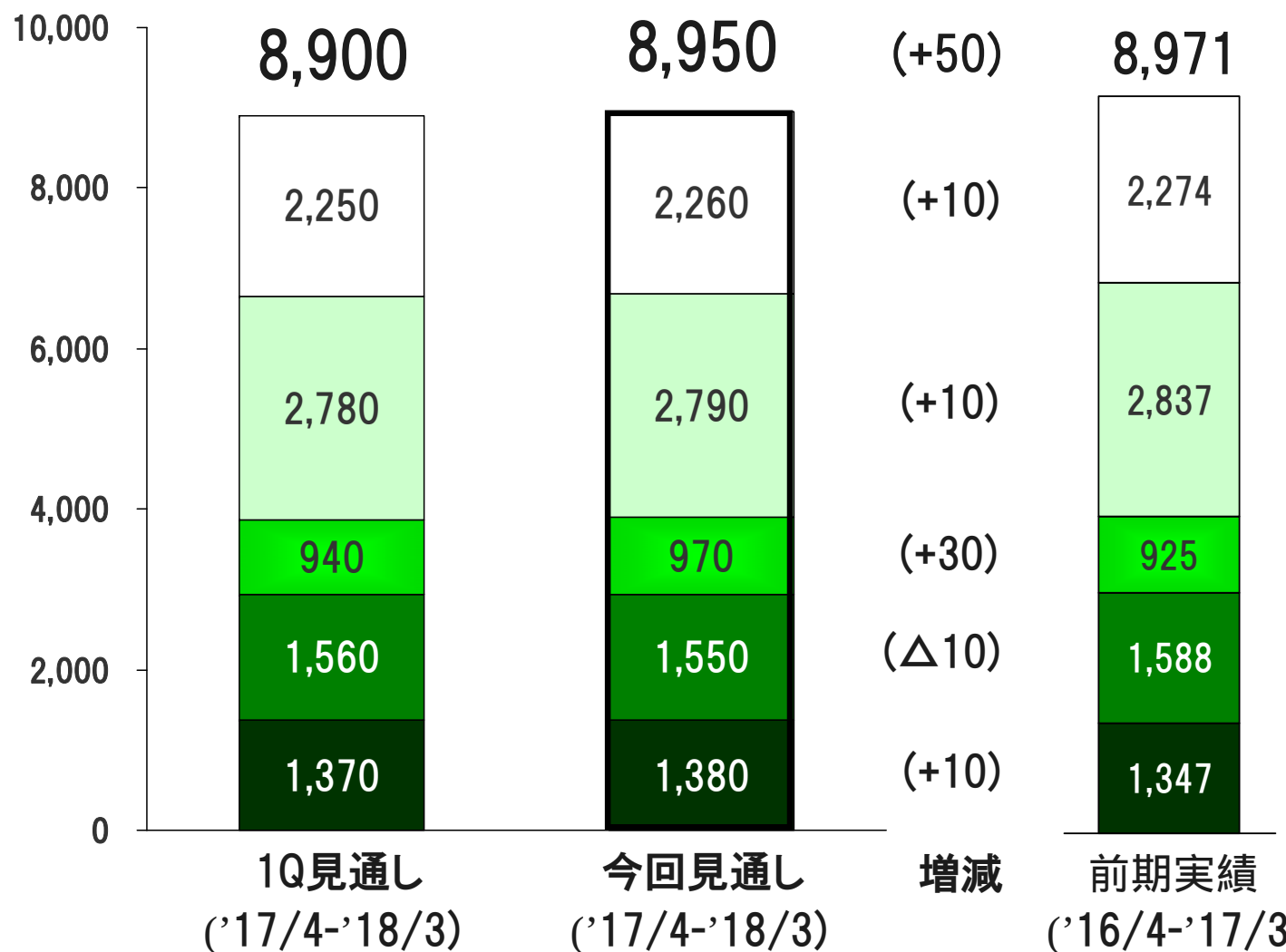
2018年3月期 第2四半期 決算説明会

2018年3月期 第2四半期 実績
(2017年4月～9月)

2018年3月期 見通し

(見通し) 連結販売台数

(単位:千台)



- 日本
- 北米
- 欧州
- アジア
- その他

中南米
オセアニア
アフリカ
中近東など

グループ 総販売台数(小売)	10,250	10,250	±0	10,251
-------------------	--------	--------	----	--------

(見通し) 連結決算要約

(単位: 億円)

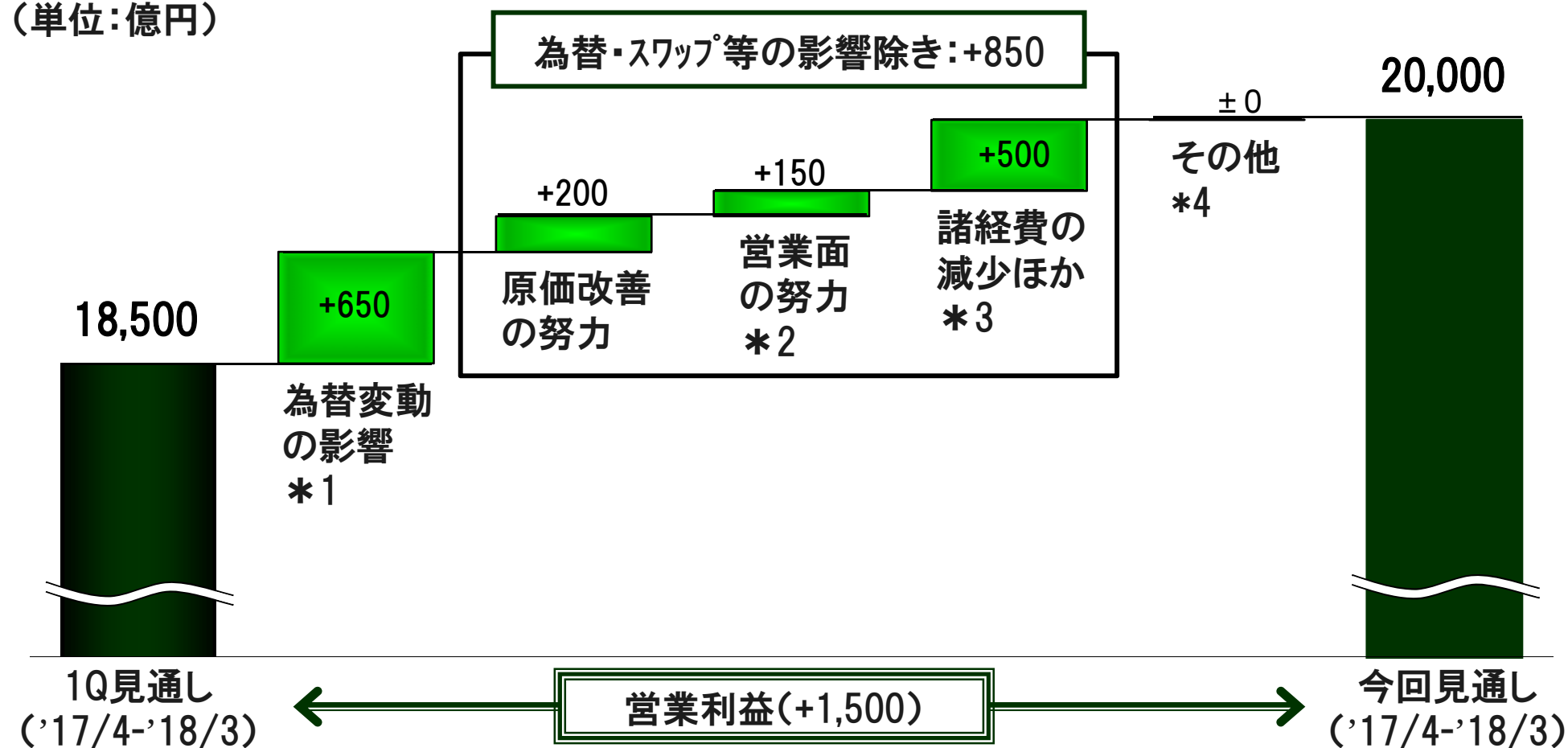
(単位:億円)		今回 見通し (’17/4-’18/3)	1Q 見通し (’17/4-’18/3)	増減	前期実績 (’16/4-’17/3)
売上高		285,000	285,000	±0	275,971
営業利益		20,000	18,500	+1,500	19,943
営業利益率		7.0%	6.5%	-	7.2%
税金等調整前 当期純利益		22,500	20,500	+2,000	21,938
持分法投資損益		4,100	3,800	+300	3,620
当期純利益 *1		19,500	17,500	+2,000	18,311
当期純利益率 *1		6.8%	6.1%	-	6.6%
為替 レート	米ドル	111円 *2	110円	+1円	108円
	ユーロ	128円 *2	124円	+4円	119円

* 1. 当社株主に帰属する当期純利益

* 2. '17年10月以降の前提為替レート: 米ドル110円、ユーロ130円

(見通し)連結営業利益 増減要因(1Q見通し差)

(単位: 億円)



*1.内訳※

輸出入等の外貨取引分	+600	海外子会社の	
-米ドル	+100	営業利益換算差	+100
-ユーロ	+250	その他	50
-その他通貨	+250	(外貨建引当の期末換算差ほか)	

*2.内訳

台数・構成	+200
金融事業	+150
その他	200

*3.内訳

労務費	150
減価償却費	+100
研究開発費	±0
経費ほか	+550

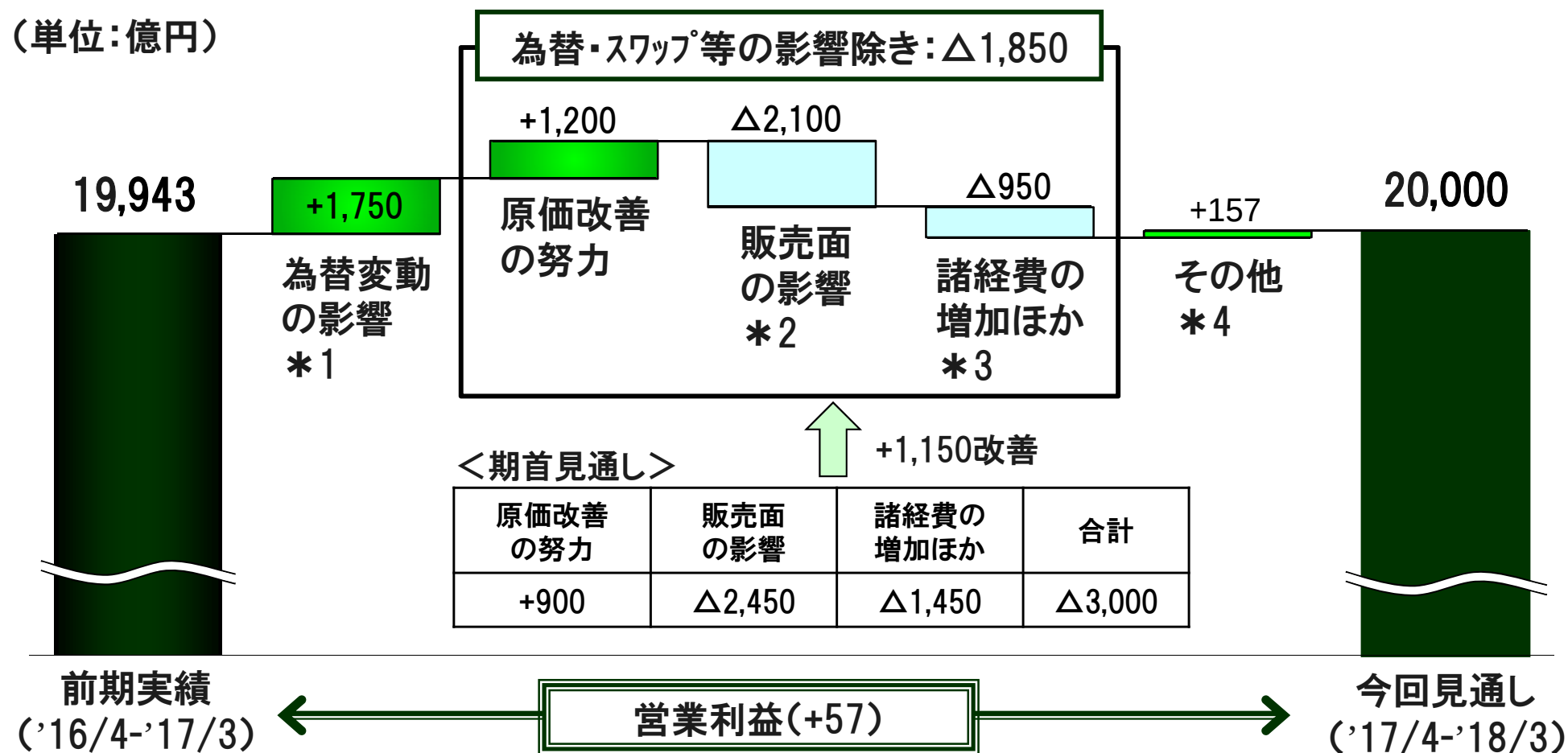
*4.内訳

スワップ評価損益ほか	±0
------------	----

先期末より、「為替変動の影響」に、海外子会社の営業利益換算差や外貨建引当の期末換算差等を含めています。

(見通し)連結営業利益 増減要因(前期差)

(単位:億円)



*1.内訳※

輸出入等の外貨取引分	+1,550	海外子会社の	
-米ドル	+850	営業利益換算差	+200
-ユーロ	+550	その他	± 0
-その他通貨	+150	(外貨建引当の期末換算差ほか)	

*2.内訳

台数・構成	600
金融事業	± 0
その他	1,500

*3.内訳

労務費	600
減価償却費	450
研究開発費	200
経費ほか	+300

*4.内訳

スワップ評価損益ほか	+157
------------	------

先期末より、「為替変動の影響」に、海外子会社の営業利益換算差や外貨建引当の期末換算差等を含めています。

競争力強化に向けた取り組み

明日を 生き抜く 「攻め」	・マツダ、デンソーとのEV共同開発の新会社を設立 ・FCの商用利用プロジェクトを推進 (セブンイレブンと協業、東京オリンピック・パラリンピックに向けFCバスを開発) ・Preferred Networkに追加出資 (モビリティ分野におけるAI技術の共同研究・開発を加速) ・新型LSを投入(世界トップレベルの高度運転支援技術を搭載) ・タクシー専用の新型車JPN TAXIを発売 (様々な人に優しいユニバーサルデザイン、高い環境性能、充実した安全装備)
今日を 生き抜く 「守り」	・カンパニー制を活かした、地域ニーズの迅速な取り込み ・仕入先も含めた継続的な原価改善 ・設備投資の原単位低減
働き方 改革	・新時間制度を導入予定

Toyota Investor Summit

9月28日に北米トヨタ新本社(米国テキサス州)で開催



※当日のプレゼンテーションの映像を、当社公式サイト Toyota Global Newsroomに掲載しております。

<http://newsroom.toyota.co.jp/jp/detail/19228335/>

モノづくり

- ・TNGAによる性能向上とコスト削減を推進し、運転する喜びが感じられるクルマづくりに取り組み

- ・LC500では、コンセプトカーのデザインを市販車で実現
- ・TNGAでパワートレイン、プラットフォーム、電子機器など全てを刷新した新型カムリを導入



次世代パワートレイン(電動化)

・国、地域によって資源、規制などの環境が異なる中、あらゆる選択肢を用意し、それぞれでクラストップを目指す

- ・マツダ、デンソーと、EVの共同開発の新会社を設立
- ・電動車市場での競争力に直結する全固体電池の実用化に取組み
- ・商用利用のFC実用化に向け、多くのプロジェクトを開始



コネクティッド

- ・クルマからの収集データを元に、新たなサービスを構築し、イノベーションを起こす

- ・マイクロソフト社と共同で設立した Toyota Connectedで、ビッグデータを活用したサービスの研究、開発を実施
- ・ドライブレコーダーを搭載したタクシーからデータを収集する実証実験を開始



自動運転/AI(人工知能)

- TRI*を中心に、人工知能を使って、自動運転、ロボット、新たな電池材料などの研究に取組み
- データは新時代の「資源」「富」と考え、データ規模の強みを活かし、AIの性能を向上

*Toyota Research Institute

- 試験走行、シミュレーションを組み合わせ高い環境認識と予測能力を持った人工知能の開発に取り組み
- 自動運転、ロボット等における新技術発掘をめざし、Toyota AI Venturesからベンチャー企業に投資



Toyota Investor Summit

TOYOTA

9月28日に北米トヨタ新本社(米国テキサス州)で開催



※当日のプレゼンテーションの映像を、当社公式サイト Toyota Global Newsroomに掲載しております。

<http://newsroom.toyota.co.jp/jp/detail/19228335/>

2018年3月期 第2四半期 決算説明会



CAMRY Hybrid

トヨタ自動車株式会社
2017年11月7日

(ご参考)当決算の総括

【第2四半期累計 実績】

- ・連結販売台数は、438万9千台(前年同期比+2万6千台)。
- ・営業利益は1兆965億円(前年同期比△203億円)。
- ・販売面の影響、諸経費の増加などにより減益。為替・スワップ評価損益等を除く営業利益は、前年同期比△1,100億円。

【通期見通し】

- ・連結販売台数は895万台(前期比△2万1千台)。1Q見通しから5万台上積み。
- ・営業利益は2兆円(前期比+57億円)。1Q見通しから1,500億円の上方修正。
(通期の為替前提を、米ドル111円、ユーロ128円に変更)
- ・為替・スワップ評価損益等を除く営業利益は、期首見通しより1,150億円改善するも、前期比は△1,850億円。
- ・資材高騰など厳しい環境ではあるが、しっかりと挽回していく。

(ご参考) 連結決算要約 (3ヶ月)

(単位: 億円)

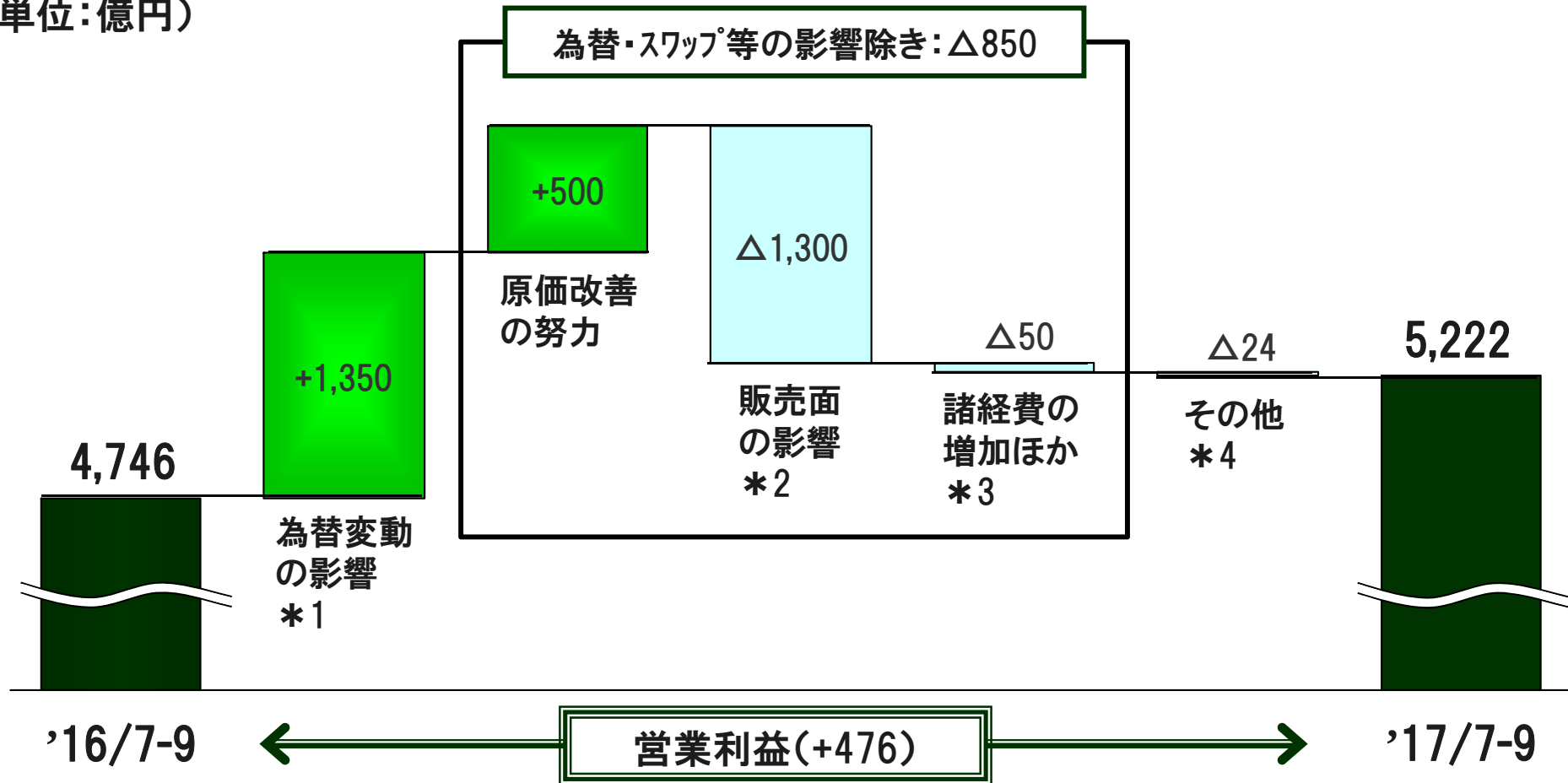
	当第2四半期 ('17/7-9)	前年同期 ('16/7-9)	増減	
売上高	71,436	64,814	+6,621	+10.2%
営業利益	5,222	4,746	+476	+10.0%
営業利益率	7.3%	7.3%	-	-
税金等調整前 当期純利益	5,728	4,994	+733	+14.7%
当期純利益 *1	4,582	3,937	+645	+16.4%
当期純利益率 *1	6.4%	6.1%	-	-
1株当たり利益 *2 (希薄化後)	152.87円	128.54円	+24.33円	-
為替 レート	米ドル	102円	+9円	-
	ユーロ	114円	+16円	-

* 1. 当社株主に帰属する当期純利益

* 2. 当社普通株主に帰属する当期純利益

(ご参考)連結営業利益 増減要因 TOYOTA (3ヶ月)

(単位: 億円)

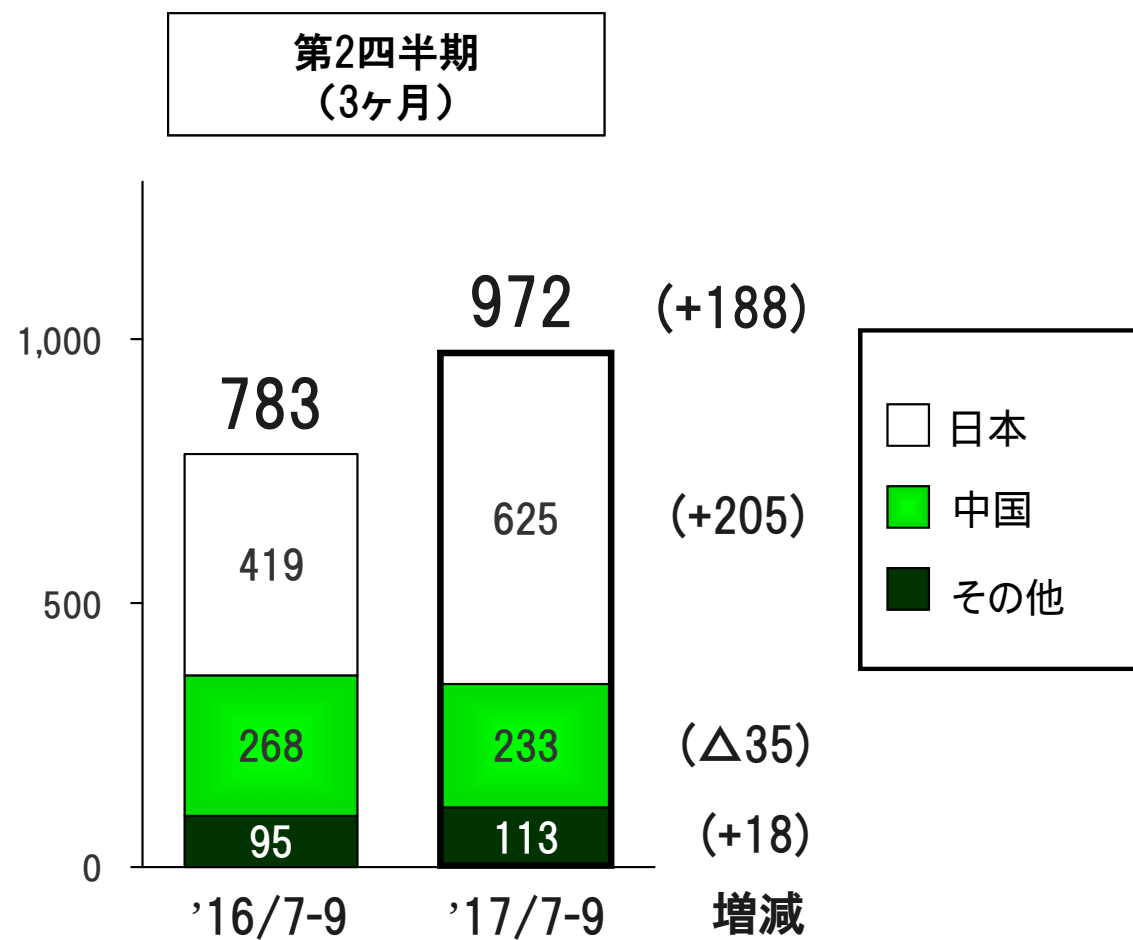
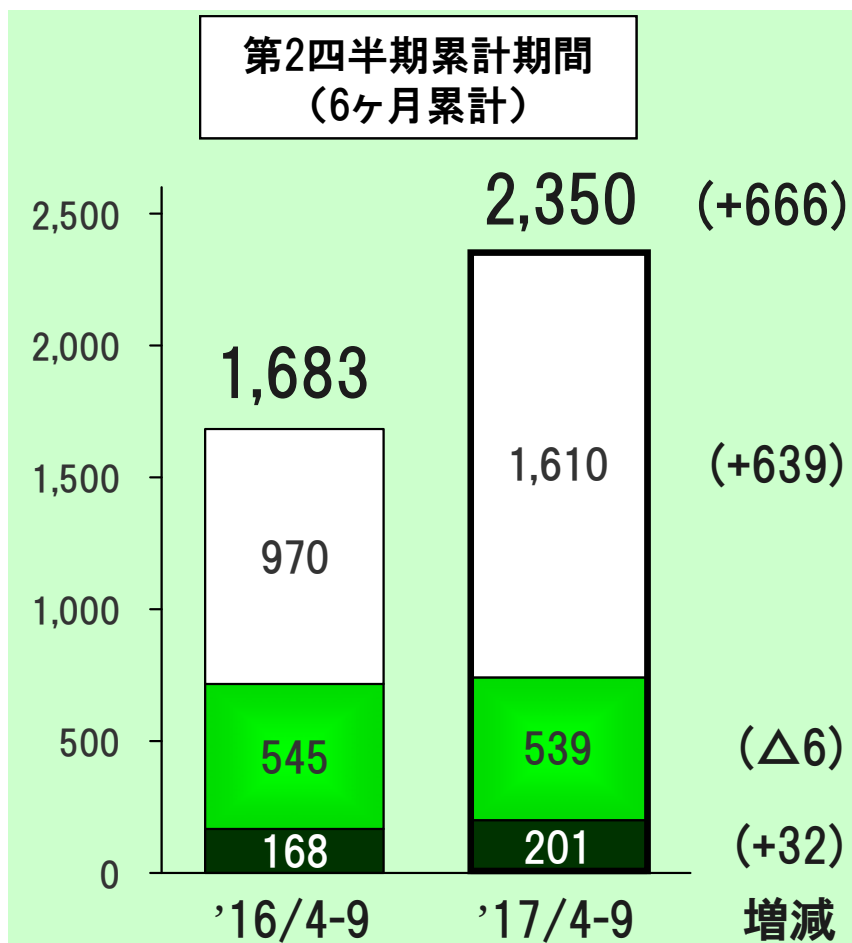


*1.内訳※				*2.内訳		*3.内訳		*4.内訳	
輸出入等の外貨取引分	+1,450	海外子会社の		台数・構成	750	労務費	100	スワップ評価損益ほか	24
-米ドル	+900	営業利益換算差	+200	金融事業	+100	減価償却費	100		
-ユーロ	+250	その他	300	その他	650	研究開発費	50		
-その他通貨	+300	(外貨建引当の期末換算差ほか)				経費ほか	+200		

先期末より、「為替変動の影響」に、海外子会社の営業利益換算差や外貨建引当の期末換算差等を含めています。

(ご参考)持分法投資損益

(単位:億円)



中国販売実績<小売台数(千台)>

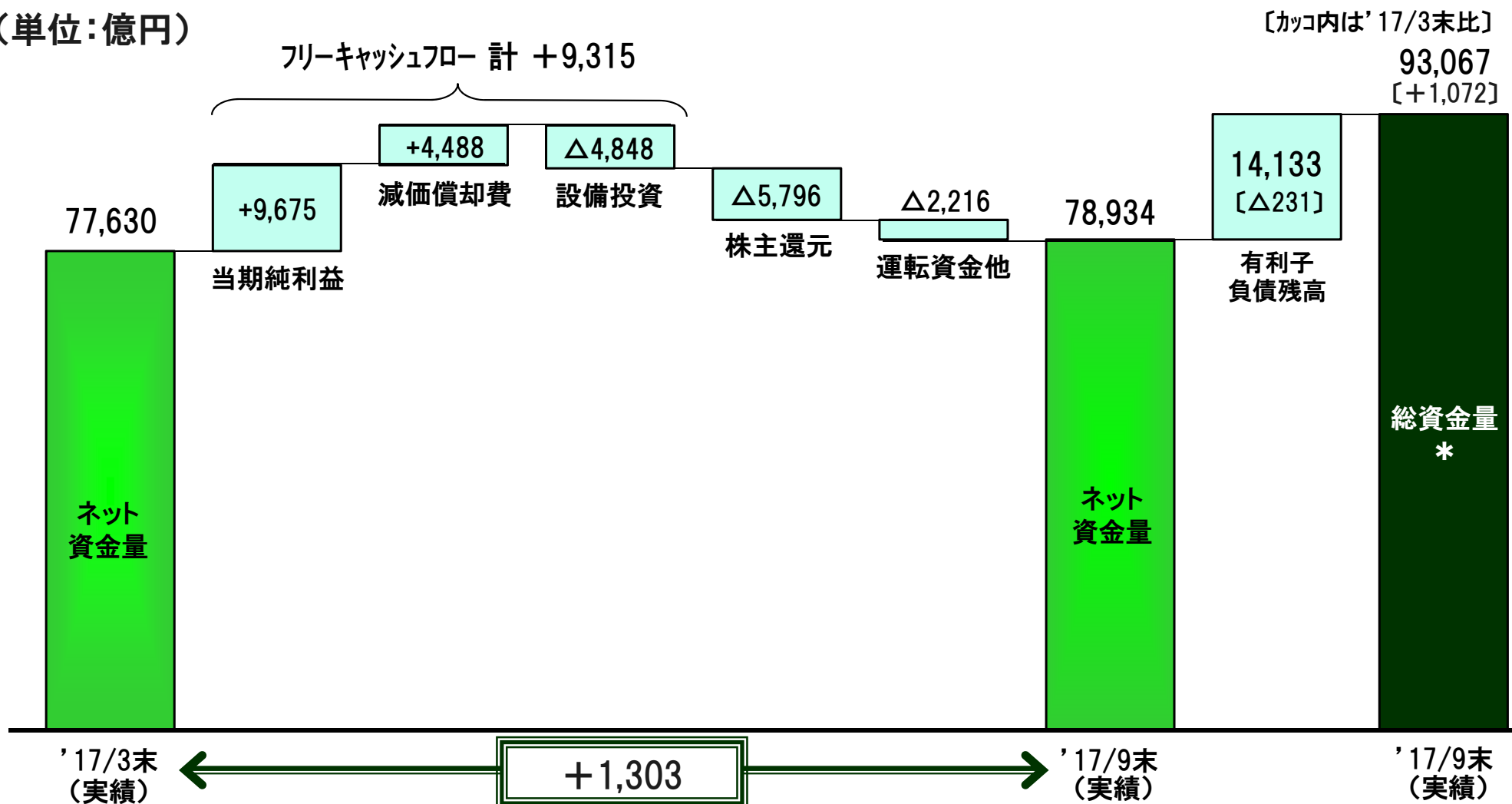
	'16/1-6	'17/1-6	
	592	624	+32

	'16/4-6	'17/4-6	
	301	328	+27

(ご参考)連結資金量(除く金融)

'17/9末 ネット資金量：78,934億円（'17/3末比+1,303億円）

(単位:億円)



* 総資金量:金融事業を除いた「現金及び現金同等物」「定期預金」「有価証券」「投資有価証券(除く株式)」等

(ご参考)株主還元

			18/3期	17/3期(実績)
中間期	配当	普通株式	2,934億円 (@100円/株)	3,003億円 (@100円/株)
		第1回AA型種類株式	37億円 (@79円/株)	24億円 (@52.5円/株)
		総額	2,971億円	3,028億円
	自己株式取得		2,500億円(上限)	1,999億円
	総還元額		5,471億円(上限)	5,027億円
	当期純利益		10,713億円	9,461億円
	総還元性向*		51.0%(上限)	53.1%

通期	総還元額	未定	10,824億円
	総還元性向*		59.1%

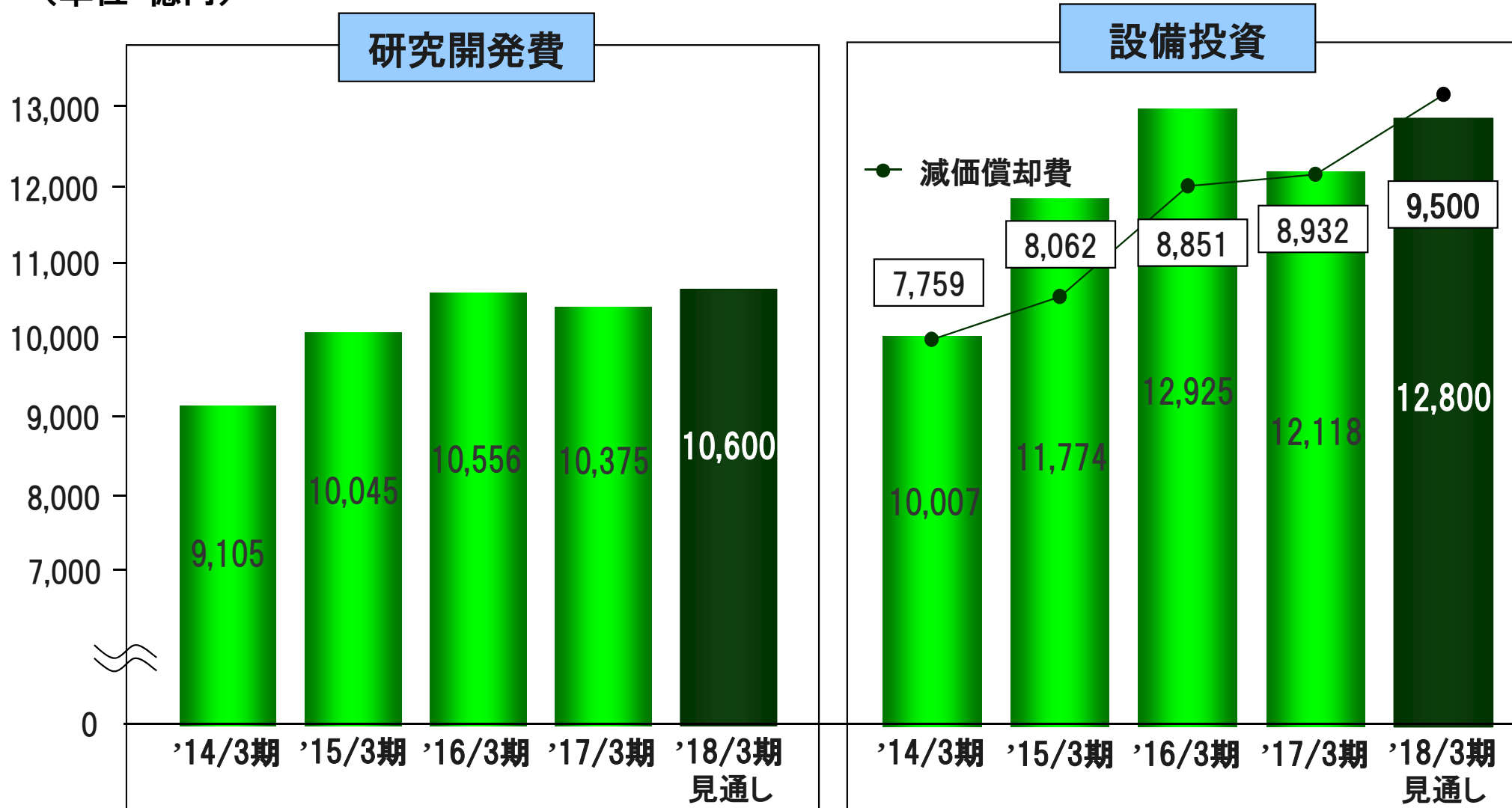
* 総還元性向 = (配当総額(普通株式および第1回AA型種類株式) + 自己株式取得) ÷ 当期純利益

(ご参考)

TOYOTA

研究開発費・設備投資・減価償却費

(単位: 億円)



1Q時点見通しからの増減:

研究開発費 ±0 億円

設備投資 △400 億円

減価償却費 △100 億円

(ご参考) 台数見通し

(単位:千台)

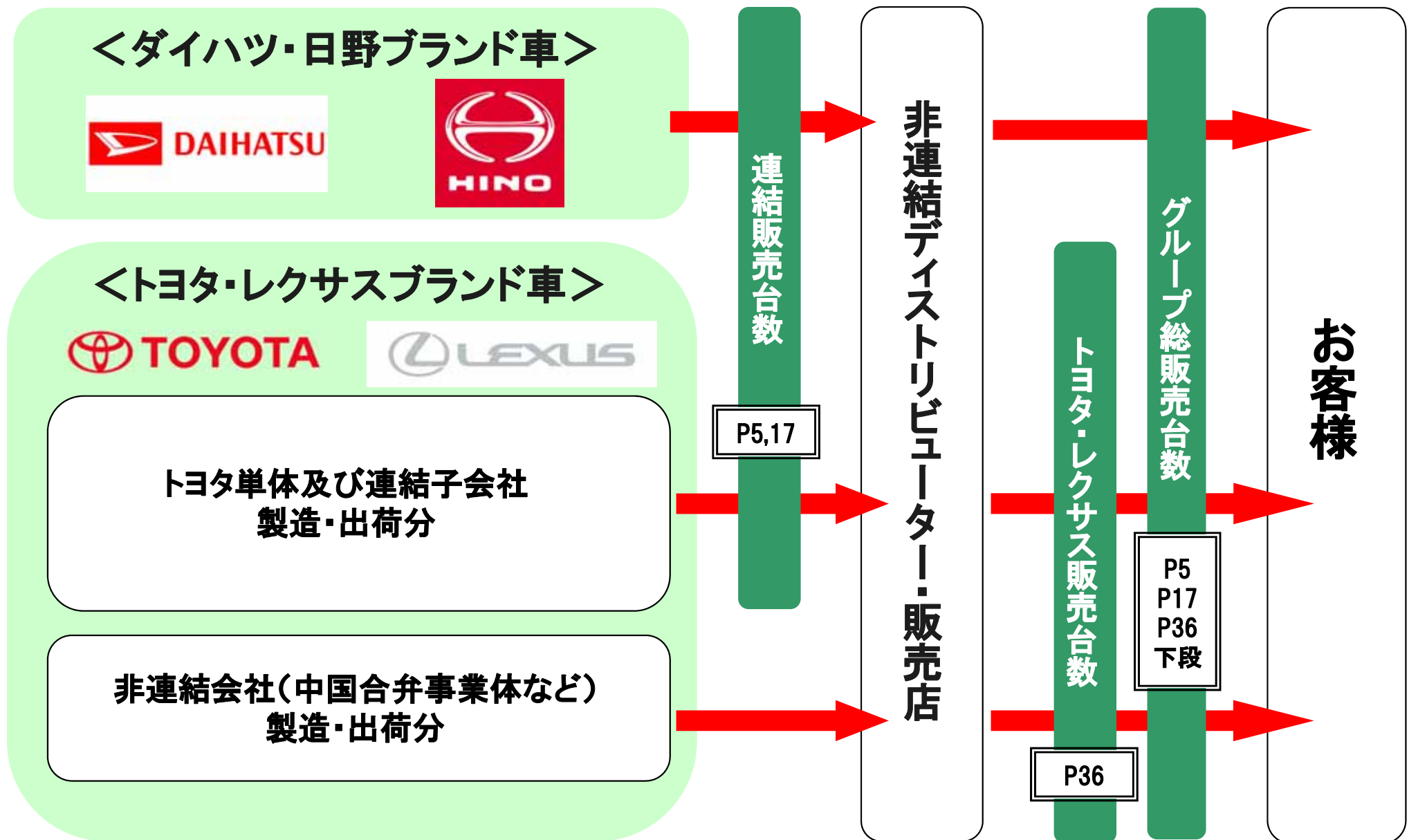
(単位:千台)

			今回 見通し (’17/4-’18/3)	1Q 見通し (’17/4-’18/3)	増減
トヨタ・ レクサス	生産 *1	国内	3,180	3,180	±0
		海外	5,770	5,720	+50
		合計	8,950	8,900	+50
	販売 (小売) *2	国内	1,580	1,580	±0
		海外	7,720	7,720	±0
		合計	9,300	9,300	±0
	輸出		1,800	1,800	±0
グループ総販売(小売)*2 … ダイハツ、日野ブランド含む			10,250	10,250	±0

*1. 非連結会社による生産台数を含む

*2. 非連結会社による販売台数を含む

(ご参考) 販売台数について



*一部例外的に、上記フローに当てはまらないケース有り